

「こころとからだの連絡帳 デイケン」について

子どもたちの心身の健康は、時に、不登校やいじめ、暴力行為などの発達上の困難な状態に繋がることがあります。そのため、まわりの大人が、子どもたちの心身の状態を注意深く見守り、必要に応じて支援を行う必要があります。

デイケンとは、毎朝の健康観察を、子どもたち自身がタブレット(パソコン)に入力して実施するWebアプリです。しかし、健康観察の機能だけでなく、先生方が、日々、子どもたちの状態を知り、見守ることができるように、次のような仕組みが施されています。

デイケンの特長

1. お子様自身が、自分の健康観察の回答をすぐに確認できるため、自分自身の状態を客観的に捉える力が育ちます。
2. 担任だけでなく、養護教諭、校長先生など、お子様に関わる先生全員が、即時に回答内容を確認できるため、お子様の状態を先生方が共有し、必要に応じて学校全体で対応することが可能です。
3. 体の健康状態だけでなく、心の健康状態(気持ち)を確認できるため、心身両面への細やかな支援が可能となります。
4. 先生に相談したいことがある場合は、ボタンをクリックするだけで伝えることができるため、話すことが苦手なお子様でも相談へのハードルがぐっと下がります。
※相談内容についてはデイケンに直接入力することはありません。相談したいと回答したお子様に対して、先生から声をかけて相談内容を確認します。
5. お子様の体や心の調子が悪い状態が続くと、自動的に先生側に表示されるため、お子様にとって必要な支援の機会を逃しません。
6. お子様の心身の健康に関するデータを、学校が効率的に管理、共有することが可能となり、蓄積したデータを用いた効果的な支援の検討も可能となります。
7. お子様の心身の状態や相談ニーズを、自動的に先生が把握できるため、お子様からのアプローチを待たずに、先生からのきめの細かな働きかけが可能で、お子様と先生のコミュニケーションの質の向上が期待できます。

子どもたちにとってのメリット

自分の体調に敏感になる

子どもたちは、大人に比べ、自分の体調の状態が正常かどうかを正確に判断することが、難しいものです。変化に気づくのが遅れ、頑張りすぎてしまうこともあります。自分の体調の変化を捉え、必要に応じて休んだり相談したりすることは、大人になってからも必要な大切な力です。デイケンでは、お子様が自分の体調を日常的に確認したり、時には振り返って、変化を確認したりすることが可能です。

自分の気持ちにも敏感になる

体調と心は強く関係しています。体と同時に、自分の気持ちの変化にも興味を持ち、把握していくことは、子どもたちにとっても大切です。また、自分の気持ちを客観的に捉えることは、健全な成長へと繋がります。さらに、心の病気も、早期発見・早期対応をすることで重症化を防ぐことができます。

デイケンでは、体調だけでなく、心の状態(気持ち)を毎日確認します。個々の記録のページでは、今日の状態だけでなく過去の記録も確認できますので、自分の心の状態の変化を確認することも可能です。

困りごとや悩みを先生に相談できる

デイケンには、先生たちに相談をしたいと伝えることができる機能が入っています。この機能を使えば、自分から職員室に行ったり、先生に声をかけたりしなくても、先生と話したい、相談したい、悩んでいることがあるということをお子様から簡単に伝えることができます。コミュニケーションが苦手なお子様でも、安心してSOSを発信することが可能です。

コラム 導入自治体での成果

デイケンとは、文部科学省委託事業「いじめ対策・不登校支援等推進事業」の一環で、2022年9月から大阪府吹田市に導入されています。デイケン実施校において、学校風土の向上、いじめの減少、不登校の新規発生率の抑制等が見られています。デイケンの取り組みとこれらのとの関連について、更に検証を進めています。

永岡文部科学大臣は、不登校に対処する新たなガイドラインとして、①不登校生向けの特別な教育課程「不登校特例校」の設置促進②1人1台配備されたタブレット端末を活用したデータに基づく兆候の早期発見③全ての児童生徒を対象とした日々のメンタルチェックの3本柱を検討し、現在の不登校が起きてからの対応中心から、兆候を早期に把握して行う予防中心への転換を行うとしています。デイケンとは、正に②③の取り組みとなり、今後の学校での不登校対策において必須のツールとなると考えられます。